|  |
| --- |
| 地域振興会議　参考資料２ |
| 年月日 | 令和５年９月１日 |
| 担当課 | 地域振興課 |

クラウドファンディングについて

クラウドファンディング（英語: crowdfunding）は、群衆（crowd）と資金調達（funding）を組み合わせた造語。多数の人による少額の資金が他の人々や組織に財源の提供や協力などを行うことを意味する。

インターネット経由で実施する事例が多いが、インターネット技術の発達前からクラウドファンディングは存在していた。

メリット

・従来の手段では資金調達が難しかったものの調達可能性が、クラウドファンディングによって広がったことはメリットといえる。

・市場に製品が出回る前にユーザーの反応を知ることができる。

　デメリット

・クラウドファンディングの実施方式によっては、目標金額に達成せず資金調達できない可能性がある。

・クラウドファンディングを始める前に、プロジェクト成立確率はどれくらいか、成立させるためにはどれくらいの人から支援を見込めそうか、それ以外に資金を集める方法はないか、といった情報を事前に調べておくことが重要。

〇起案者のリスク

・企画が頓挫した場合は責任を負わなければならない。

・発案の際は綿密な企画設定をしなければならない。

・リターンは目標達成後速やかに実施する。

・支援者、または投資家がお金を使って支援・投資を受けたのなら、速やかにリターンを実行しなければならない。

〇支援者のリスク

・支援者を守る制度が整備されていない。

・企画が頓挫したらリターンは受けられない。

・起案の責任は主に起案者が負う。

**２　クラウドファンディングの種類**

クラウドファンディングは資金提供者に対するリターン（見返り）の形態によって大きく大別される。

寄付型：起案されたプロジェクトに対して支援者がお金を寄付する仕組みのクラウドファンディング。

**伝統行事の伝承活動、花火実施費用イベント開催費用**

**難病治療の薬や治療法の開発、障害者のためのバリアフリー整備**

購入型：起案されたプロジェクトに対して支援者がお金を支援し、支援者はそのリターンとしてモノやサービスを得る仕組みのクラウドファンディング。

**芸術、ファッション、グルメ、家電、フィットネス、映画、**

融資型：事業者が仲介し資産運用したい個人投資家から小口の資金を集め、大口化して借り手企業に融資する仕組みのクラウドファンディング。

株式投資型：個人の起案者ではなく株式会社が行う資金調達の一つで、個人投資家へ非公開株を提供する代わりに資金を募る仕組みのクラウドファンディング。

ファンド型：株式型と同じく企業がおこなう資金調達の一つで、特定の事業に対して個人投資家から出資を募る仕組みのクラウドファンディングです。

**途上国のインフラ整備、最新テクノロジー開発**

ふるさと納税型：自治体が解決したい課題を具体的にプロジェクト化し、そのプロジェクトに共感した人からふるさと納税によって寄付を募る仕組みのクラウドファンディングです。

**自治体の特産品（肉・野菜・魚介類・穀物）、コスメグッツ、旅行券、**

**イベントのチケット、衣服**

**３　実施に向けた流れ**

起案する際に取り決めなければならない目的・金額・リターンを設定する。

資金を募ることから、支援者・起案者双方にWin-Winになるようなものを設定する。

　　起案者

1. 掲載したいクラウドファンディングサイトを検討

2. クラウドファンディングのプロジェクトページを作成

3. プロジェクトページ完成後、公開して資金調達をスタート

4. 募集期間中はさまざまなプロモーション活動を行い、プロジェクトページを拡散

5. 集まったお金で、プロジェクトを実行

支援者

1. クラウドファンディングサイトでさまざまなプロジェクトを閲覧

2. プロジェクトページの内容やリターンの詳細を確認

3. 募集期間内にクラウドファンディングサイト上で支援（決済）

4. 募集期間終了後、活動報告などでプロジェクトの進捗を随時確認

5. リターンが予定通り届くかどうかを確認